

ルーブリック「酸・塩基」

○パフォーマンス課題の内容

指示薬として紫キャベツ水溶液を使用し、水溶液A～Gを酸性の水溶液と塩基性水溶液に分類する。さらに水溶液A～GをpHの値の低いものから順番に並べる。

| 達成度 評価の ポイント | 観 点 | レベル3 (十分に満足) | レベル2 (おおむね満足) | レベル1 (努力を要する) | 評価の資料 |
|---|------------|---|--|----------------------------------|-----------|
| 水溶液の酸性、中性、塩基性を指示薬の色の変化から判断し、分類できたか。 | 【思考・判断・表現】 | 既習の内容を用いて科学的な根拠を示しながら、水溶液の液性を分類している。 | 指示薬の色の変化を踏まえて水溶液の液性を分類している。 | 誤りが見られるが、自分の考えに沿って水溶液の液性を分類している。 | ワークシートの記録 |
| 水溶液のpHを比較するために、指示薬を用いた観察・実験でどのような操作を行えばよいか、計画を立て検証できたか。 | 【観察・実験の技能】 | 既習の内容を用いて的確に実験を進め、7種類の水溶液をpHの小さいものから順番に並べることができている。 | 自分の考えに沿って実験を進め、誤りが見られるが7種類の水溶液をpHの小さいものから順番に並べることができている。 | 手順や操作に誤りが見られるが、実験に取り組むことができている。 | ワークシートの記録 |

※レベル1に到達していない場合は、各水溶液の特徴と、それを踏まえた適切な実験操作について、個別の指導等を通して学び直す機会を設ける。